

働きやすい職場環境づくり

※1 ヒヤリ・ハット活動
日常の業務の中で、ヒヤリとしたりハットしたりしたが、災害にはならなかった体験を「ヒヤリ・ハット」と呼んでいます。これらの体験報告を共有することにより、事故災害の未然防止に役立てる活動です。

安全への取り組み

安全管理

産総研では、組織的な安全管理に関する教育・啓蒙などによる安全意識の向上、施設・設備などの改善などにより災害の未然防止を図っています。ヒヤリ・ハット活動^{※1}を開始して、今までの事故情報とともに産総研全体の情報の共有により、事故災害の再発防止活動に役立てています。また、講習会を開催して、安全管理に資する知見を得るとともに資格の取得をしています。

安全巡視

産業医、衛生管理者、研究ユニットおよび研究ユニット長による定期的な巡視の実施により、危険有害要因を排除するとともに、基本的な整理・整頓や什器の転倒防止などの措置も含めて事故災害の予防措置を図っています。また、講師を招いた巡視セミナーの実施や他の研究拠点を点検する相互巡視の実施により、視点の統一性を図り、さらに巡視の月間テーマを決めてポイントを絞った重点的なチェックを行うことで、巡視の形骸化を防ぎ、巡視の重要性を周知しています。

健康管理の取り組み

職員の健康障害や疾病の早期の発見を目指して、一般健康診断および特殊健康診断を定期的実施するとともに人間ドックの受診も奨励しています。健康診断実施後の有所見者に対しては、医療スタッフとの面談を呼びかけ、心身のケアなどのフォローアップ体制も確立しています。以下は2005年度における数値です。

一般健康診断受診率 96.1%

特殊健康診断受診率 93.6%

人間ドック受診者数 583名

また、禁煙相談やウォーキング活動などを通して、職員の健康の保持増進に努めています。

メンタルヘルスの取り組み

心の健康づくりとして、個人のプライバシー保護に十分な配慮を行いながら、産業医や産業カウンセラーによるカウンセリングおよび電話相談などを行っています。

また、産業医および外部講師によるメンタルヘルスセミナーを開催し、セルフケアおよび職務ラインによるケアについて知識を習得してもらうよう働きかけています。

その他、外部専門機関との連携により、職員およびその家族が利用できる電話および電子メールによる相談体制も整えています。

セクシュアル・ハラスメント防止の取り組み

セクシュアル・ハラスメントの相談は、各事業所にいる相談員および産業医またはインターネットによる相談体制を整えています。被害にあった時はもちろん、周りで見かけたときやセクシュアル・ハラスメントについて疑問を感じていることがあれば気軽に相談できる体制になっています。また、「セクシュアル・ハラスメントをなくすために職員等が認識すべき事項についての指針」の中ではセクシュアル・ハラスメントになり得る言動を例示しています。

2005年度の相談件数は6件ありました。

研究ハラスメント防止の取り組み

研究業務に固有のハラスメント（研究ハラスメント）について、各事業所にいる相談員が、基本的には職務ラインを通じて対応しています。なお、職務ラインで対応することが困難なものについては、職員などからの申し立てを受けて委員会が審査を行い、必要な措置を提言することにより、研究ハラスメントにより当該職員が被った不利益を回復します。

2005年度の相談件数は3件ありました。

保安防災の取り組み

防災訓練

災害時における職員などの安全確保を目的として、自衛消防隊を主体とした通報、初期消火、避難、避難誘導の防災訓練を年1回各研究拠点で実施しています。

つくばセンターでは、大規模地震を想定した9事業所一斉の訓練を初めて行い、3,720人が参加しました。また、各研究拠点では起震車による地震体験および煙ハウスを使用した煙体験、消防署員による防火と防災についての講話などを実施しました。

2005年度の防災訓練の総参加者数は5,034人でした。



つくばセンター一斉防災訓練の様子

救命救急講習会とAED

2005年度に全事業所にAED^{※2}を設置しました。従来から随時実施している救命救急講習会と併せてAEDの取り扱い方法についても講習会を行っています。



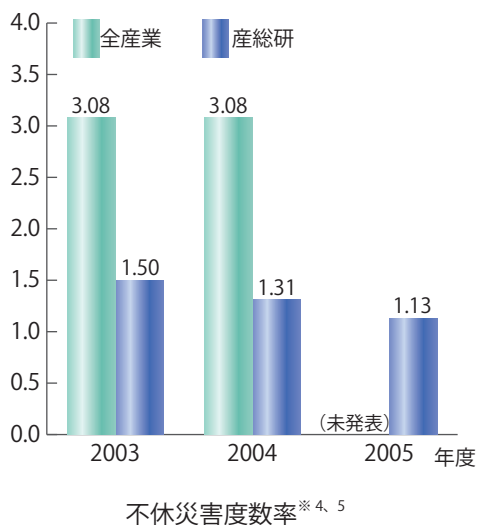
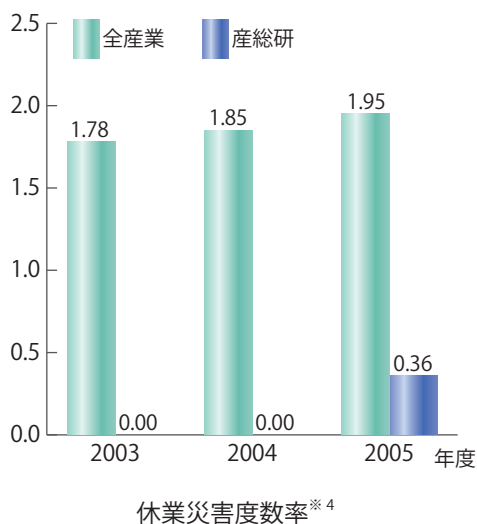
診療所（つくばセンター）に設置されたAED

労働災害の状況

産総研では、研究開発に伴う少量多品種の薬品やガスの取扱いなどによる日常的な危険要因にさらされています。

そのため、安全はすべてに優先することを基本とするとともに、過去の事故事例を参考にし、ヒヤリ・ハット活動の推進およびその事例を活用して事故災害の未然防止と再発防止を図っています。

2005年度は、休業災害が7件発生し、そのうち6件が転倒事故^{※3}でした。



※2 AED

自動体外式除細動器。Automated External Defibrillatorの略。突然心停止状態に陥ったとき、心臓に電気ショックを与えて、正常な状態に戻す医療機器です。

※3 転倒事故

6件のうち、3件が屋外で発生したものです。そのうち、2件は路面と降雪の凍結によるものです。

※4 度数率グラフについて

度数率：延実労働時間100万時間あたりの労働災害による被災者数

全産業：事業所規模100人以上

※5 不休災害度数率のデータについて

2005年度の不休災害の度数率については、全産業のデータは公表されていません（2006年9月1日現在）。